

牛久：学校周辺に見る自然

第43号 ひたち野西近隣公園(ひたち野うしく小)

2012年12月1日発行

く 水辺公園、秋の動物たち ～冬越しに備えて ②トンボの仲間>

11/8、ひたち野うしく小4年生たちとの水辺公園、秋の生きもの観察。今回はトンボの仲間です。



トンボの季節も終わりに近づき、弱々しく見えるアキアカネのメス(左)とオス(右)。卵で越冬する。



トンボの季節もまもなく終わりですが、アキアカネがまだ数匹見られました。産卵は済んでいるので、メスのお腹もへこんで見えます。

左も赤とんぼの仲間ですが、こちらはノシメトンボ。翅(はね)のはしにこげ茶の大きな模様があるのと、胸のもよのちがいで見分けられます。どちらも秋に産卵し、卵で寒い冬を越します。赤とんぼの仲間、ノシメトンボ。卵で越冬。



観察の3日前、池をながめながら歩いていると、岸辺のヨシの枯葉に違和感を感じました。何かいるぞと近づいてみると、トンボがとまっていました。ホソミオツネントンボのようです。そばまで来ても、じっとして動きません。翌日には強い雨と風があったのでどうかと思いましたが、観察の8日にはいなくなっていました。

名前の通り成虫で越冬するホソミオツネントンボ(細身越冬とんぼ)。



最後に、**オオアオイトトンボ**です。上がオスで下がメス。連結してひらひらととんでいました。これも赤とんぼの仲間と同じく、秋に産卵して卵で越冬します。以上のように、トンボの仲間には卵や成虫で越冬するものもありますが、じつはこちらは少数派で(成虫越冬は日本では3種しかいない)、大部分のトンボは幼虫(ヤゴ)で冬を越します。

【理科支援員 宮内】